

大書院

徳川幕府の創設者である徳川家康（1543～1616 年）は、婚姻を通じて自らの家を皇室と結びつけることを生涯の夢としていた。彼自身はその実現を見る前に亡くなってしまったが、1619 年にその夢はかなえられた。家康の孫娘である和子（1607～1678 年）が後水尾天皇（1611～1629 年）の妻となったのである。このことを記念して、京都中で建物の新築や改装の事業が数多く行われた。そのうちのひとつが、新しい宮殿の建設であり、この建物はのちに妙法院の中に移築され、大書院と呼ばれるようになる。大書院は重要文化財となっている。有名な狩野派の絵師たちによって描かれた壁画や襖絵があり、17 世紀初頭の美学的な感性と芸術的な豊かさを示す、記念碑的な建築である。